

# 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の特徴（和歌山県）

## 1 教科に関する調査結果

### (1) 和歌山県（公立）と全国（公立）の平均正答率

単位：%

	小学校国語	小学校算数	小学校理科	中学校国語	中学校数学	中学校理科
県	68	58	57	52	45	480※
全国	67	58	57	54	48	503※

※令和7年度から、中学校理科は、CBTが導入され、平均IRTスコアで結果が示されている。

※平成28年度からは、学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、平均正答率については整数値で示している。

### (2) 和歌山県（公立）平均正答率と全国（公立）平均正答率との差の推移

単位：pt(ポイント)

	小学校国語		小学校算数		小学校理科	中学校国語		中学校数学		中学校理科
	A	B	A	B		A	B	A	B	
H29	0	-1	0	0		0	-2	0	0	
H30	1	0	-1	-1		-1	-2	1	-2	
H31(R1)	0		-1			-3		-1		
R3	0		0			-4		-2		
R4	-1		0		1	-3		-1		-4
R5	1		0			-3		-1		
R6	0		1			-3		-3		
R7	1		0		0	-2		-3		-23※

※令和7年度から、中学校理科は、CBTが導入され、平均IRTスコアで結果が示されている。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等により実施見送り。

※平成31年度からは、全ての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式となったため、従来のAB区分がなくなっている。

### (3) 調査結果の特徴

小学校は、国語が全国平均を上回り、算数、理科は全国平均と同程度の結果となった。

中学校は、全ての教科で全国平均を下回った。

#### ○成果

- ・小学校国語では、「知識及び技能」の平均正答率が全国を上回った。
- ・小学校算数では、「データの活用」の平均正答率が全国を上回った。
- ・小学校理科では、「エネルギー」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域の平均正答率が全国を上回った。

#### ●課題

- ・中学校国語では、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。
- ・中学校数学では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。
- ・中学校理科では、身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定することに課題がある。

## 2 質問調査結果

### ○成果

- ・小学校国語、算数、中学校の全ての教科で、「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合が、全国を上回った。

【全国差 小国語+1.4pt、小算数+3.7pt、中国語+0.4pt、中数学+3.1pt、中理科+1.6pt】→概要 P6(1)②

### ●課題

- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童生徒の割合が、全国を下回った。 【全国差 小学校-0.7pt、中学校-2.9pt】→概要 P8(2)②
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合が、全国を下回った。

【全国差 小学校-3.7pt、中学校-7.0pt】→概要 P8(2)⑤